

平成27年5月12日
在ポルトガル日本国大使館

東博史大使からのメッセージ

風薫る5月となり、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

今月も皆様に嬉しいお知らせがあります。谷垣禎一・日本ポルトガル友好議員連盟会長(自民党幹事長)が4月30日から5月2日までポルトガルを訪問されました。私も、全日程に同行いたしました。

●谷垣日本ポルトガル友好議連会長の当国訪問

4月30日から5月2日まで、谷垣・日本ポルトガル友好議連会長一行(とかしきなおみ自民党副幹事長、磯崎仁彦自民党副幹事長)がポルトガル(リスボン及びポルト)を訪問しました。

4月30日、一行は、エアネス元大統領、ギリエルメ・シルヴァ共和国議会副議長、カヴァコ・シルヴァ大統領表敬を行ったほか、ポルトガル日本友好議員連盟主催の昼食会に出席されました。また、アジュダ宮では、シャビエル文化担当副大臣と会談した後、同副大臣出席の下で「南蛮屏風下張り文書のレプリカ贈呈式」が行われました。5月1日には、一行はポルトに移動し、対岸のヴィラ・ノヴァ・デ・ガイアでのパッソス・コエーリョ首相主催の昼食会に出席したほか、在留邦人と懇談の機会を持たれました。更に、2日、ソアレス・ドス・レイス博物館を訪問し、そこでリスボンから駆け付けたミゲル・サントス・ポルトガル日本友好議員連盟会長と会談するとともに、今後、京都国立博物館で修復を予定している同博物館所蔵の「南蛮屏風下張り文書」を一緒に御覧になりました。

各表敬・会談において、谷垣会長は、「昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問、本年3月のパッソス・コエーリョ首相訪日という両国首相の相互訪問の実現による交流の活発化を受けて、時を置かず、日本ポルトガル友好議連会長として当国を訪問し、各方面の交流を後押しするとともに、両国の議員交流をリードしたい。ポルトガルは、昨年トロイカ支援から卒業したが、日本もアベノミクスによって経済が順調に回復しており、両国が協力していく素地は整ったともいえ、今後、両国の産官学の協力進展を期待する。また、昨年7月、日本はCPLPオブザーバー加盟を果たし、CPLP諸国における両国連携の可能性も拡大している。更に、自分は、「南蛮屏風下張り文書の修復事業」を進めてきており、引き続きポルトガル側の支援を得たい」等述べました。

これに対し、カヴァコ・シルヴァ大統領からは、「両国首相の相互訪問が実現したことは、両国関係発展にとり極めて重要であり、喜ばしい。自分は、京都を訪問したことがあり、孫も日本にホームステイしたことがある。日本で小学生と会った際に、「ポルトガルから来た」と言うすべての子供が「ポルトガル人」による鉄砲伝来を知っており、驚きもし、嬉しく思った。

「南蛮屏風下張り文書」は、両国の歴史的な関係を明らかにするものであり、その「修復」を期待している。また、ポルトガル経済は、回復基調にあり、CPLP 諸国での協力を含め、両国官民の経済関係の発展を願っている。更に、ポルトガルの魅力を日本国民に知らせて頂いて、日本からの観光客が増加することを期待している」等の発言がありました。

パッソス・コエリョ首相は、メーデーの5月1日に、ポルトに谷垣会長を招待し、ポートワインのワイナリーを自ら案内するとともに、3時間以上にわたる昼食会を開催してくださいました。その対応は心温まるホスピタリティのあふれたものでした。同首相は、「3月末の訪日に大変満足している。この訪日により、今後の両国の関係拡大の可能性について良い展望が得られた。特に、京都大学では、「高齢化社会」の問題を解決するためのロボット技術や今後の産業化の動きについての説明に感銘を受けた。また、「グリーン経済」として、環境・エネルギー分野における両国の関係強化・具体的な協力についても「スマート・コミュニティ」プロジェクト等の展望が開けている。さらに、両国は「海洋国家」であり、漁業を含め、環境に配慮した海洋開発について協力が可能であり、先般の訪日の際に近畿大学とアルガルヴェ大学との間でマグロの養殖をはじめとする水産関係で MOU に署名されたのは良かった。6月はじめにリスボンで開催予定の海洋に関する国際会議「ブルーウィーク」に日本から閣僚や民間企業の参加を得たい。昨年7月、日本が CPLP にオブザーバー加盟したことから、CPLP 諸国における協力の可能性も広がっている。また、文化面でも「南蛮屏風下張り文書の修復」についてポルトガル政府としても協力したい。更に、先般の訪日の際、京都外大のポルトガル語学科の学生達に会い、そのポルトガル語の能力の高さに感銘を受けたが、両国において、相互にポルトガル語、日本語の普及・習得に協力したい。その他にも、両国の映画や建築デザイン、現代アート等についても協力できるのではないかと考えている」等述べました。

共和国議会訪問においては、ギリェルメ・シルヴァ副議長との会談のほか、議長公邸において、ポルトガル日本友好議連主催昼食会が開催されました。同昼食会では、今後の議員交流をはじめワーキングホリデイを活用しての青年交流の在り方や、両国の貿易・投資の促進、エネルギー問題、CPLP 諸国における協力等について意見交換が行われました。同昼食会の最後にと与党（社会民主党）、野党（社会党）双方の議員から「本年秋には総選挙が予定されており政権交代の可能性もあるが、どちらの党が与党になっても、日本との関係強化の姿勢は不変である」との発言がありました。

また、5月2日午前、谷垣会長が、ポルトのソアレス・ドス・レイス博物館を訪問した際、同博物館に、リスボンからわざわざミゲル・サントス・ポルトガル日本友好議連会長が来訪し、エステーヴェス議長からの伝言を谷垣会長に伝えました。

これに対し、谷垣会長は、「わざわざポルトに来て頂き謝意を表したい。今次訪問は、サントス会長から頂いた招待状に呼応するものである。エステーヴェス議長が近い将来に訪日される際には歓迎することを伝言願いたい」旨述べました。

この後、谷垣会長とサントス会長は、近い将来に、京都国立博物館で「修復」を予定しているソアレス・ドス・レイス博物館所蔵の「南蛮屏風下張り文書」を視察し、今後の「修復」に双方が協力することについて合意しました。

今回のポルトガル訪問には、とかしきなおみ衆議院議員、磯崎仁彦参議院議員が同行しまし

たが両議員からは、「今次訪問は大変良い訪問であった。また、ポルトガルのファンになったので、両国関係の更なる強化に尽力したいと考えている」との示唆がありました。

このように、谷垣日本ポルトガル友好議連会長の当国訪問は、昨年5月の安倍総理のポルトガル訪問、本年3月のパッソス・コエーリョ首相訪日という両国首相の相互訪問の実現による両国関係の拡大を受けて、時を置かずに訪問していただき、両国の議員交流の活発化をはじめ、各方面の交流を後押しし、政治・経済・文化等あらゆる面で、両国関係の飛躍的關係強化に更なる「弾み」をつけるものとなりました。

●「南蛮屏風下張り文書修復」事業及び「贈呈式」

上記各会談でとりあげられた「南蛮屏風下張り文書修復」事業及び「贈呈式」については、次号以降に詳細を報告致します。（「贈呈式」については、この大使館便りの4.（10）をご覧ください。）

●リスボン水族館で展開されている天野尚(たかし)氏による「水中の森」40メートル水槽

現在、「リスボン水族館」において、水系クリエイターの「天野尚(たかし)」氏による「水中の森」40メートル水槽が展開されています。同水槽は、「淡水」によるもので、世界でも類を見ない水槽で、世界中の水族館関係者の注目を集めているとのことです。

4月21日、同展示の開幕セレモニーがあり、私も出席いたしました。同セレモニーには、アスンサオン・クリスタス農業・海洋大臣、モレイラ・ダ・シルヴァ環境・エネルギー大臣も出席しました。両大臣とも最近訪日しており、特に、シルヴァ環境大臣は、3月のパッソス・コエーリョ首相訪日に同行しました。シルヴァ大臣は、その開会挨拶の中で、「今回の展示は、パッソス・コエーリョ首相訪日以降最初の日・ポルトガル間の重要なプロジェクトであり、このプロジェクトを通じて、「生物多様性」「地球環境保全」の重要性を世界に訴えると共に、この「自然の美しさ」を示すことにより、「環境保全と芸術」の連携、「環境保全と経済活動」の連携についても思いを馳せてもらい、リスボン水族館に多くの来訪者が来られることを期待している」と述べました。

このように、「淡水による40メートル水槽」は、世界中で、日本人の「天野尚(たかし)」氏にしかなしえない技術とのことです。皆様にも是非御覧頂きたく存じます。

以上のように、4月にも、日本ポルトガル両国関係強化にとって重要な進展がありました。今後とも政治、経済、文化など幅広いあらゆる分野で、更に重層的な関係構築に尽力する所存ですので、皆様の御理解と御支援・御協力をお願い申し上げます。